

平成23年度検事の外部派遣について

刑事局総務課

本稿は、平成23年度に[]に派遣された東京地方検察庁笹川修一検事及び[]に派遣された同庁（現東京法務局訟務部）逸見佳代検事の研修結果報告であり、今後の執務の参考になると思われるので紹介する。

検事の外部派遣について

東京地方検察庁

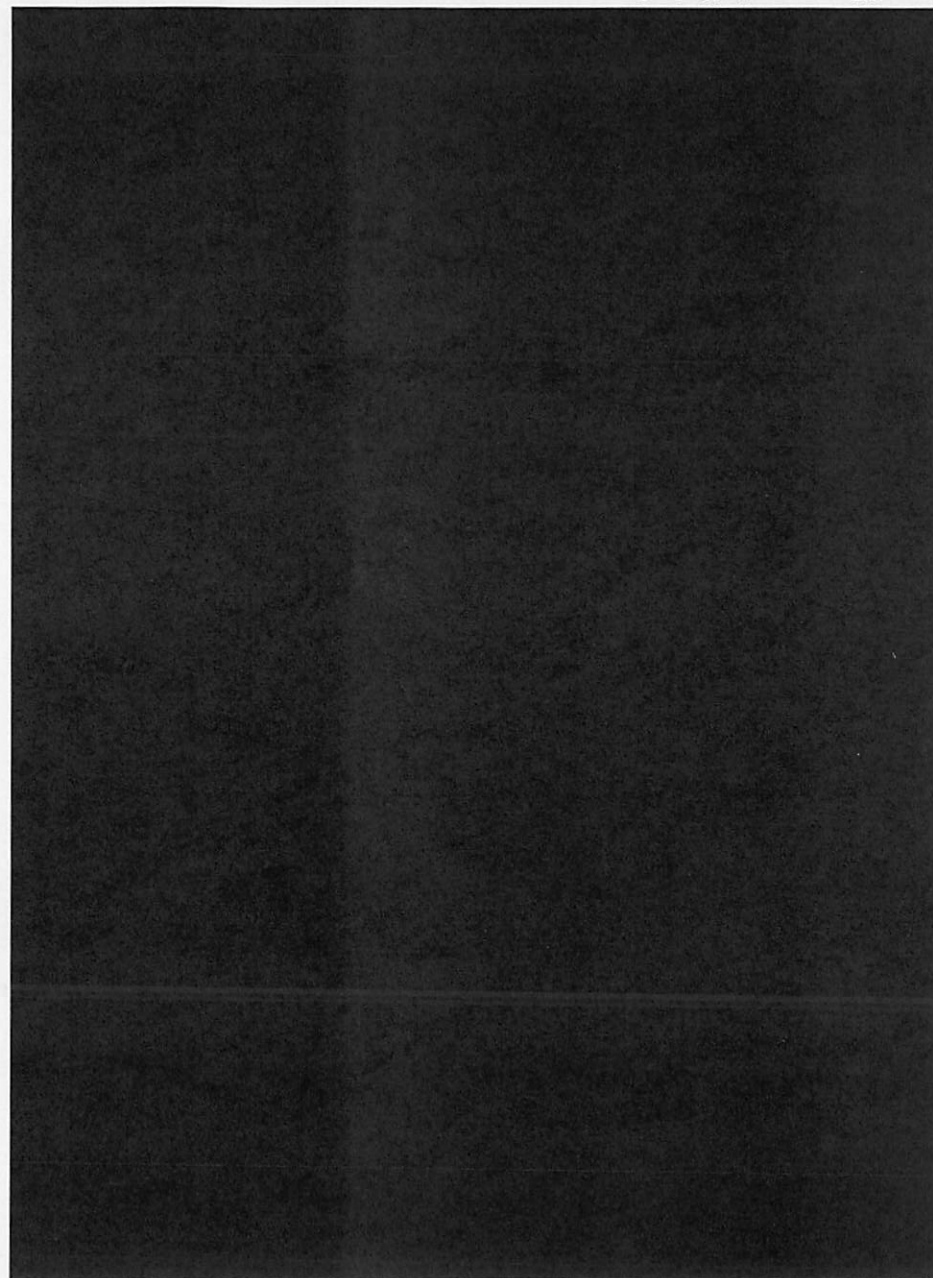
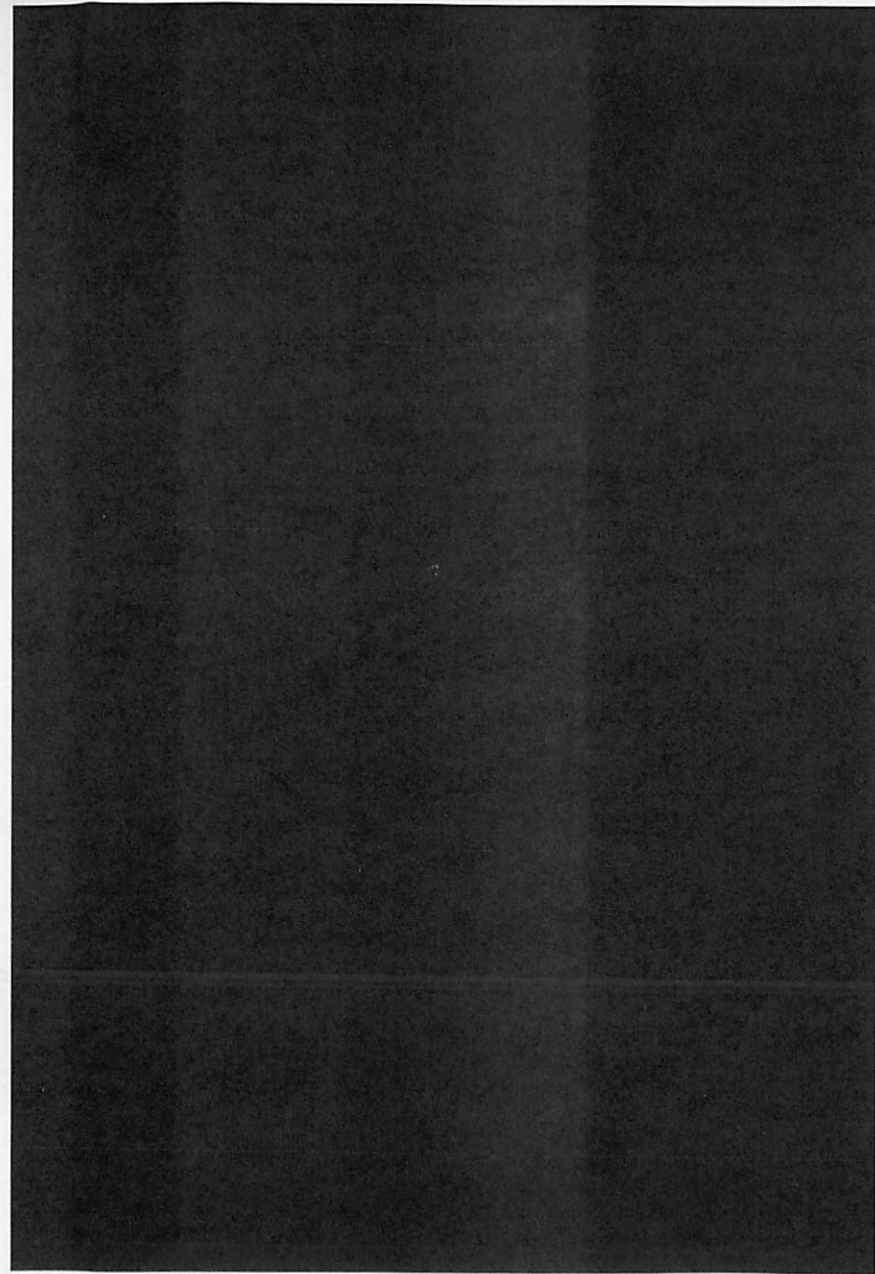
検察官検事 笹 川 修 一

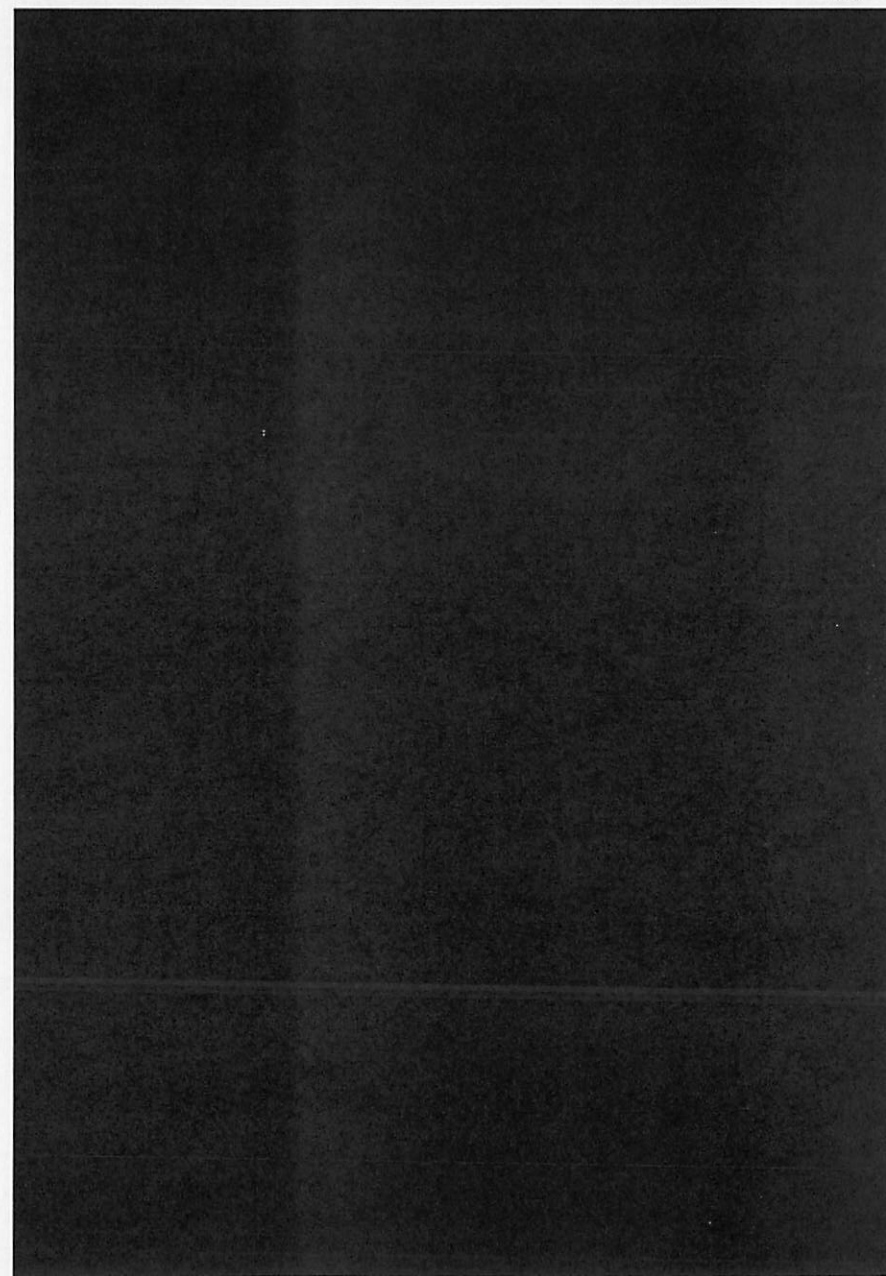
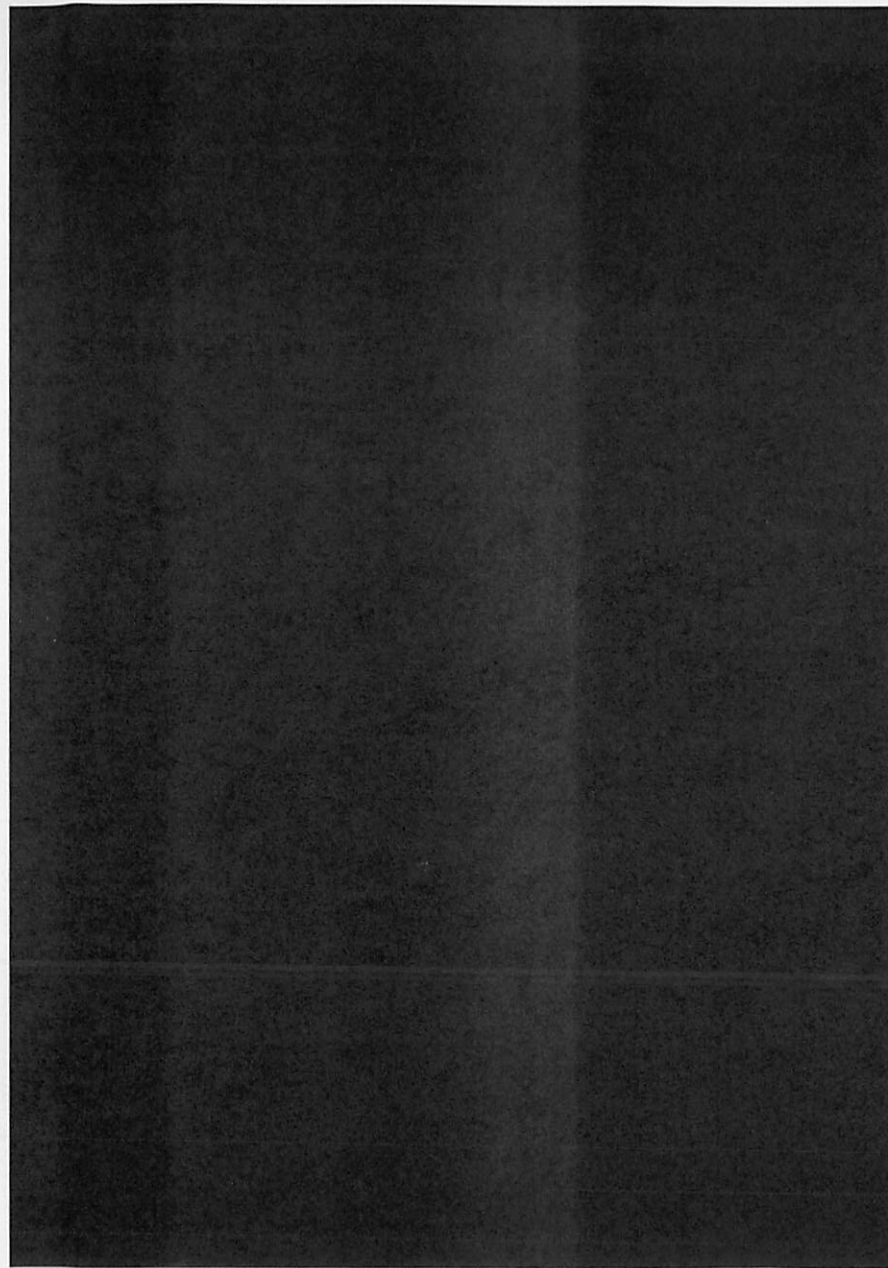
本職は、平成23年10月1日から平成24年3月31日までの間、検事外部派遣研修の研修員として、[]

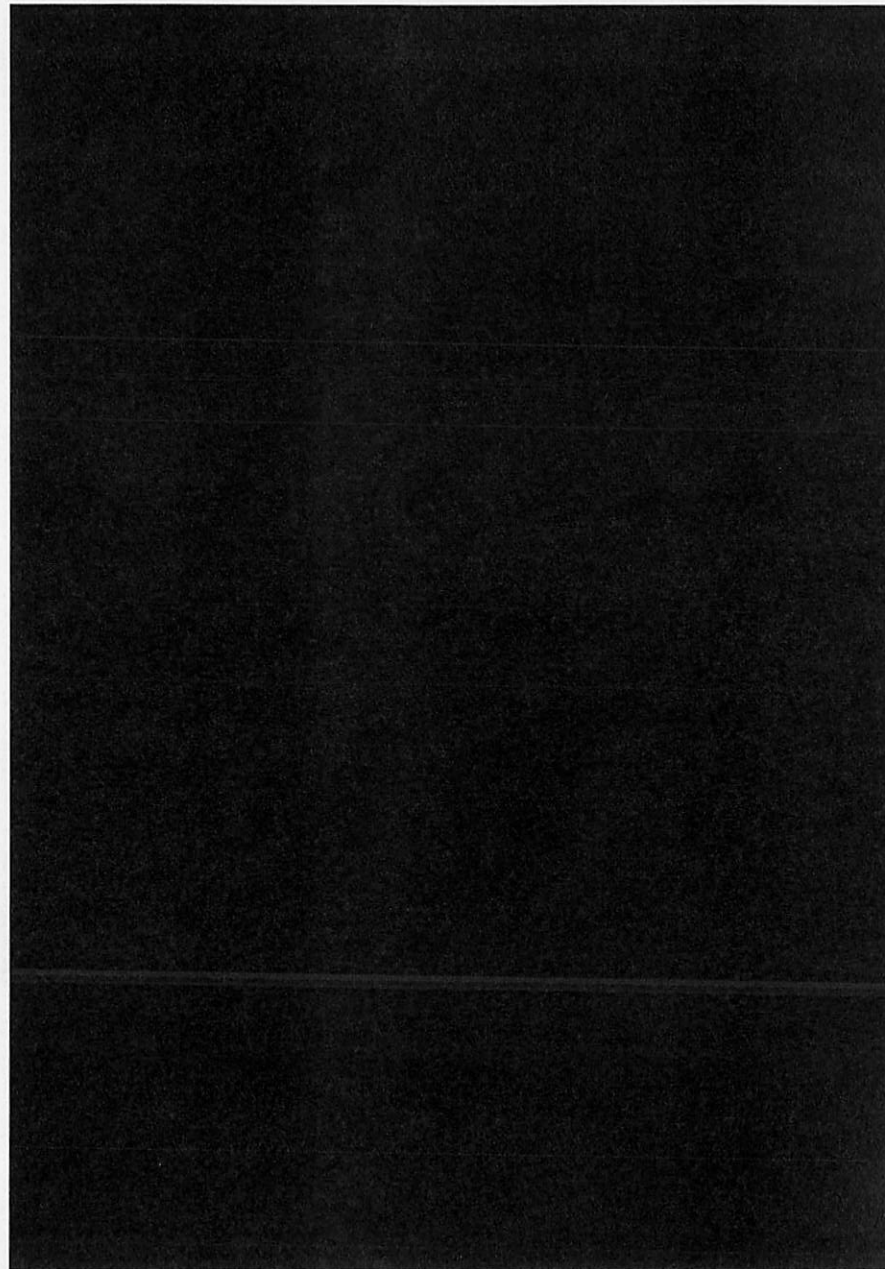
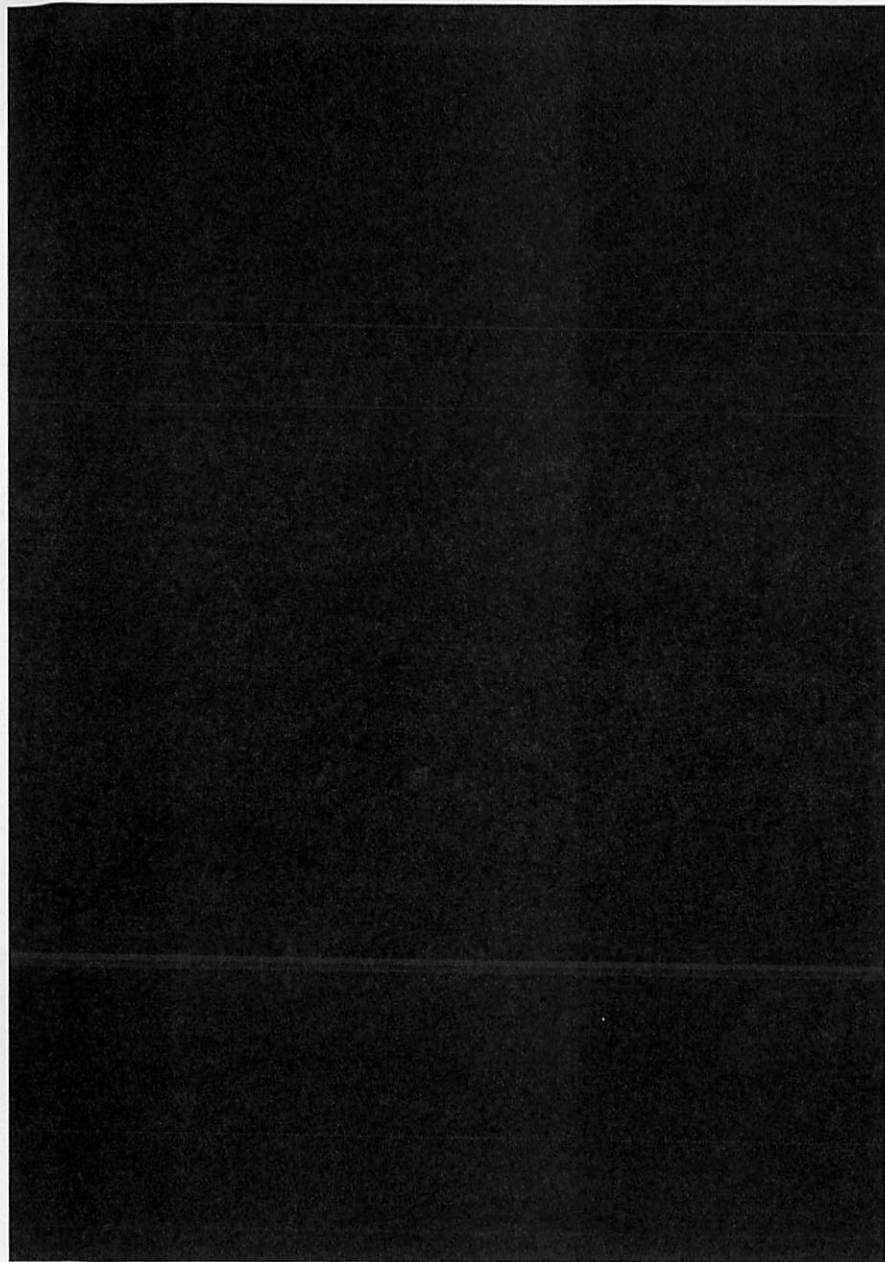
[]において研修を受けたので、その結果について下記のとおり報告する。

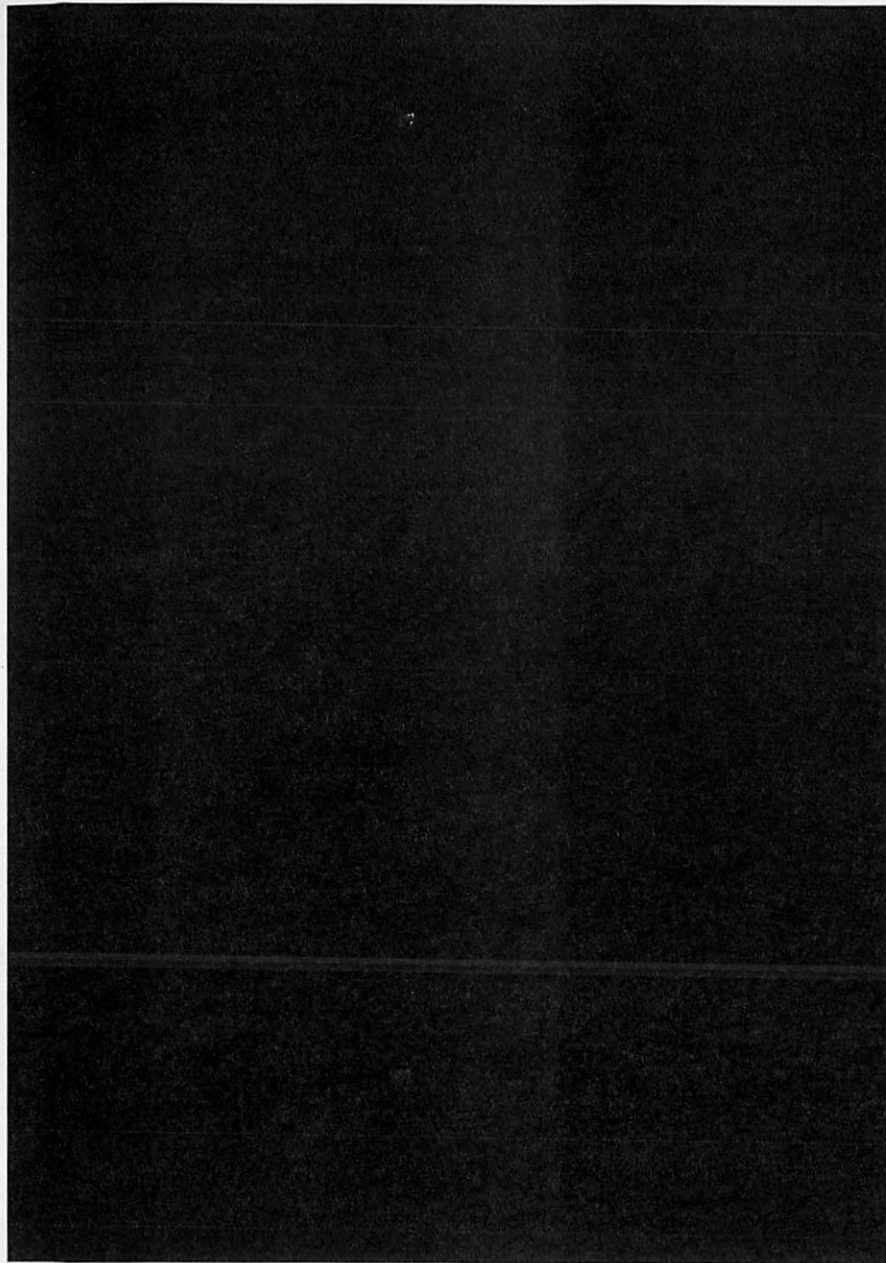
記

[]及び本職の研修内容等を報告し、最後に、[]について述べていくこととする。

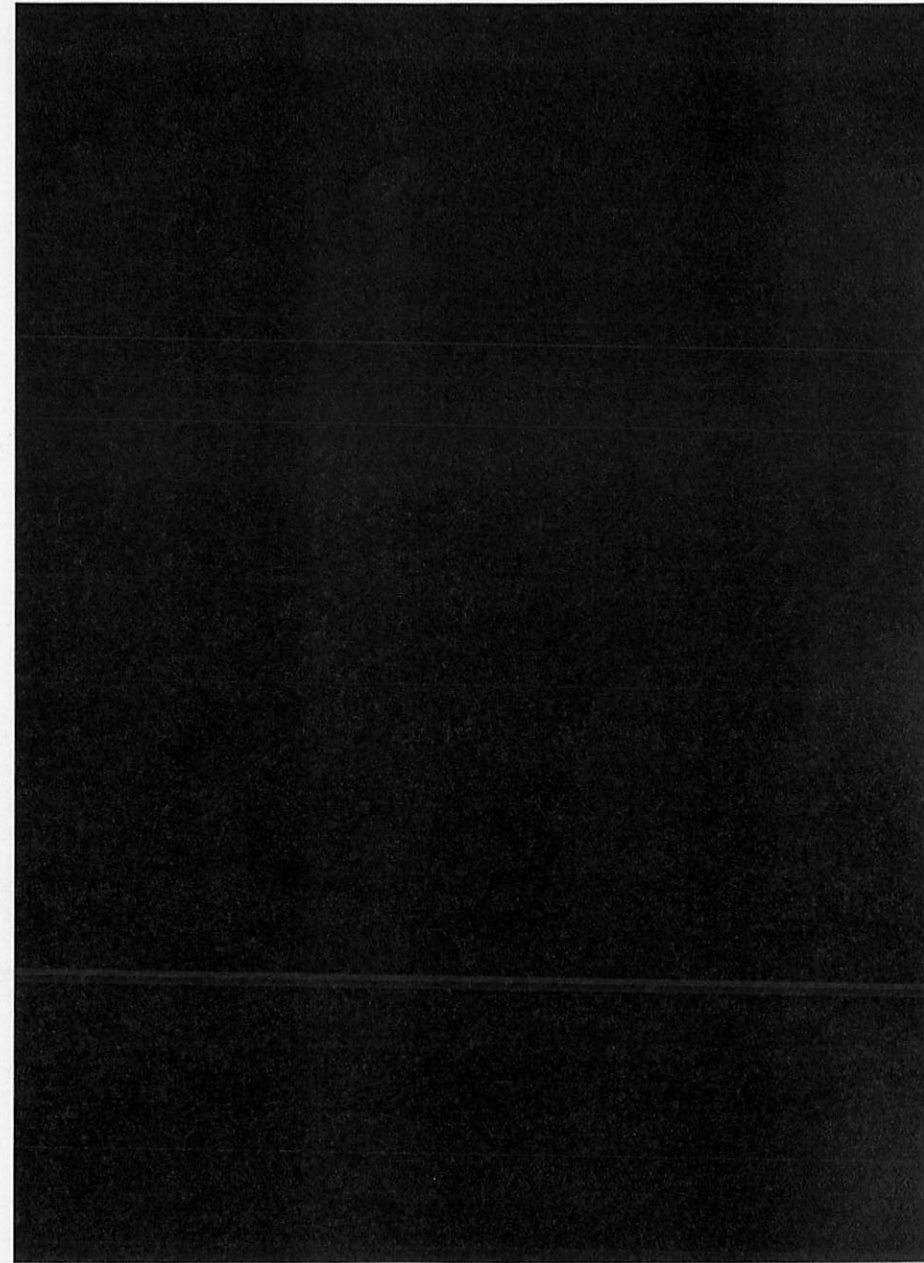




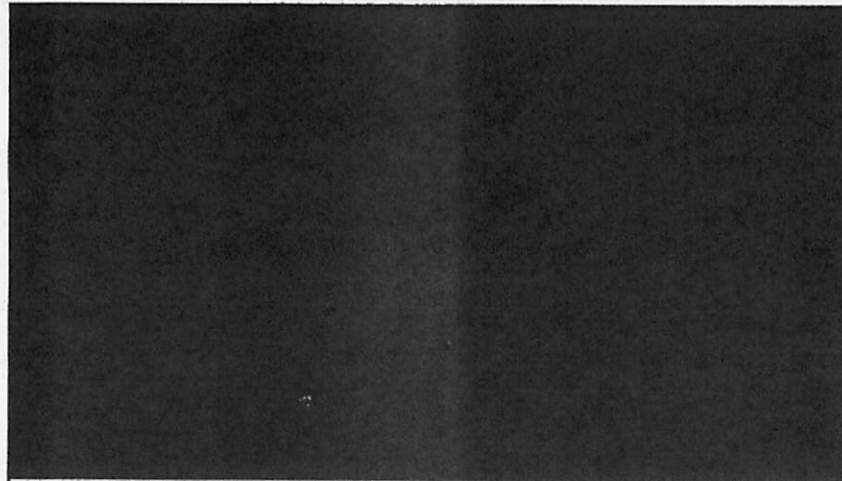




666号 (H24.9)



666号 (H24.9)



検事の外部派遣について

東京地方検察庁

検察官検事 逸 見 佳 代

本職は、平成23年11月1日から平成24年2月29日までの間、検事外部派遣研修により、[redacted]において研修を受講したので、その結果について、下記のとおり報告する。

記

第1 はじめに

検事が[redacted]で一体何を学ぶのか。

これは、[redacted]での研修が決まってからこれまでに、検察庁職員や[redacted]で接した方々から幾度となく繰り返された質問である。

確かに、検察庁と[redacted]とは、あまりにも業務の目的や内容が異なっており、組織の持つ雰囲気などかけ離れた部分も多い。

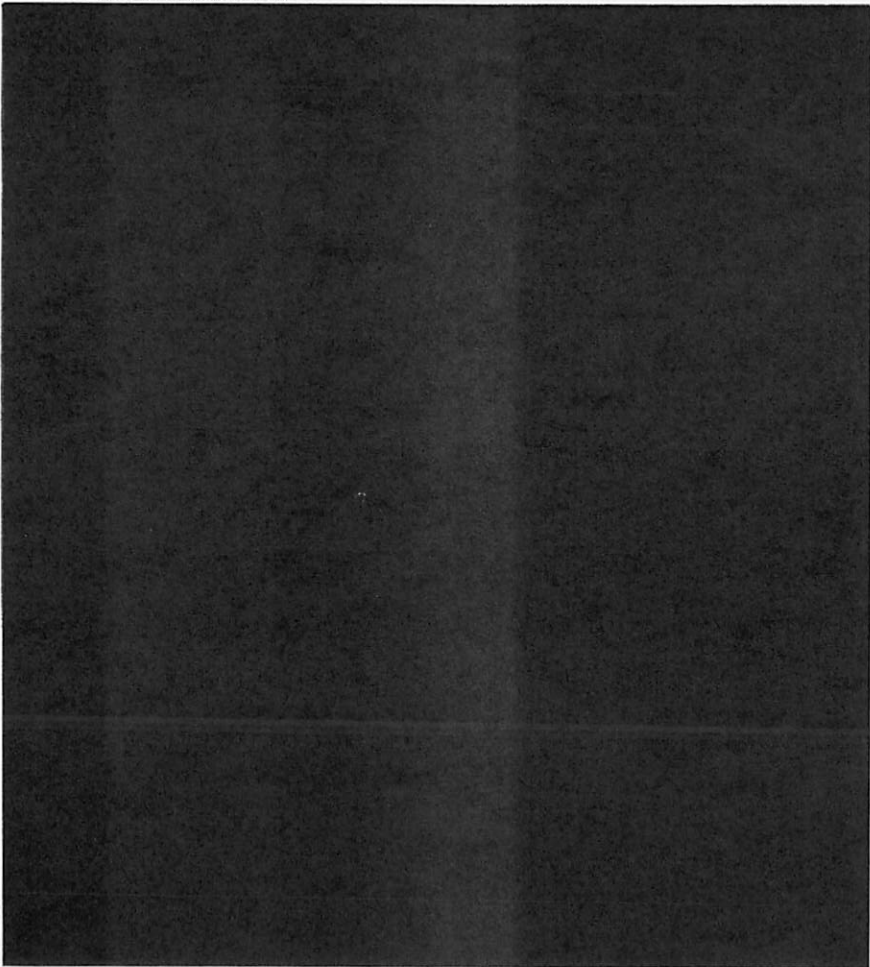
しかし、今回の研修が刑事司法分野と直接関わりのない組織において行われたからこそ、これまでにない‘気付き’を多く得られたと感じており、特に検察という‘組織’を改めて考える上で、学ぶべきことが多かったように思う。それはどの外部組織に行っても同様であろうが、[redacted]は、自己の組織が社会の中で果たすべき役割を考え、それをミッションや目標などとして掲げ、組織全体で共有するという姿勢を明確に打ち出している上、そのような意識が本社支社含めた社員隔々にまで浸透している組織であったため、短期間在籍した外部の私までもが資生堂という組織の在り方を十分に感じることができ、特に多くの気付きを得られたように思う。そのような[redacted]において研修させていただいたことを心から有り難く思っている。

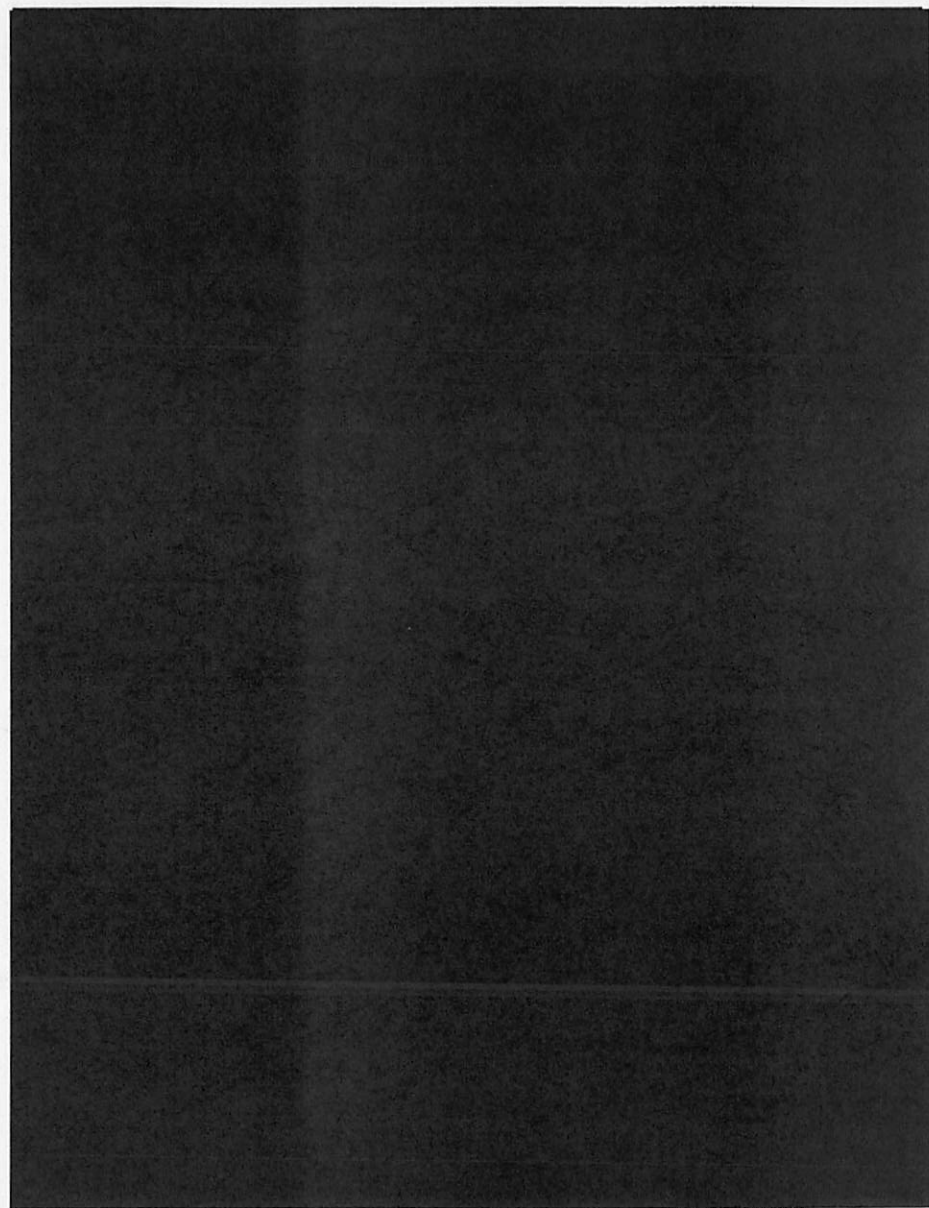
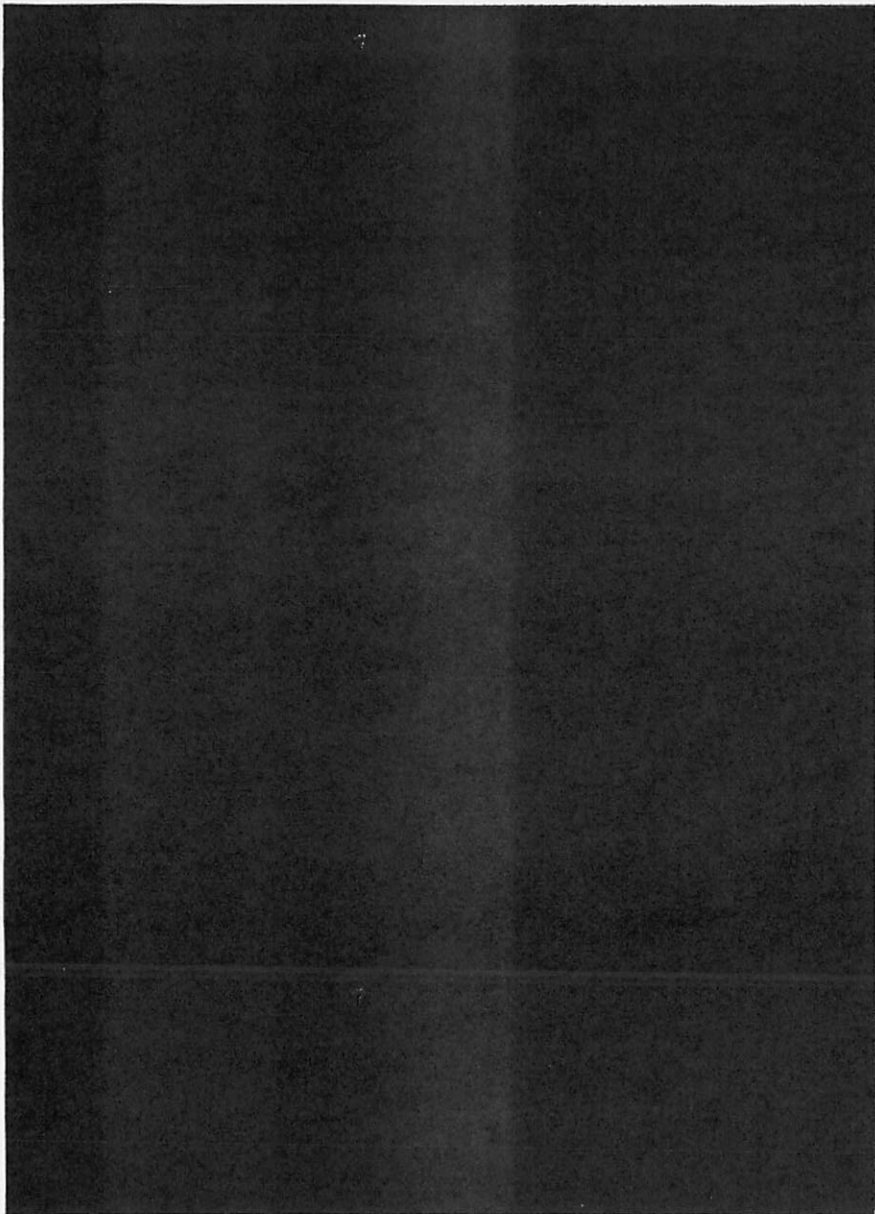
第2 研修の概要

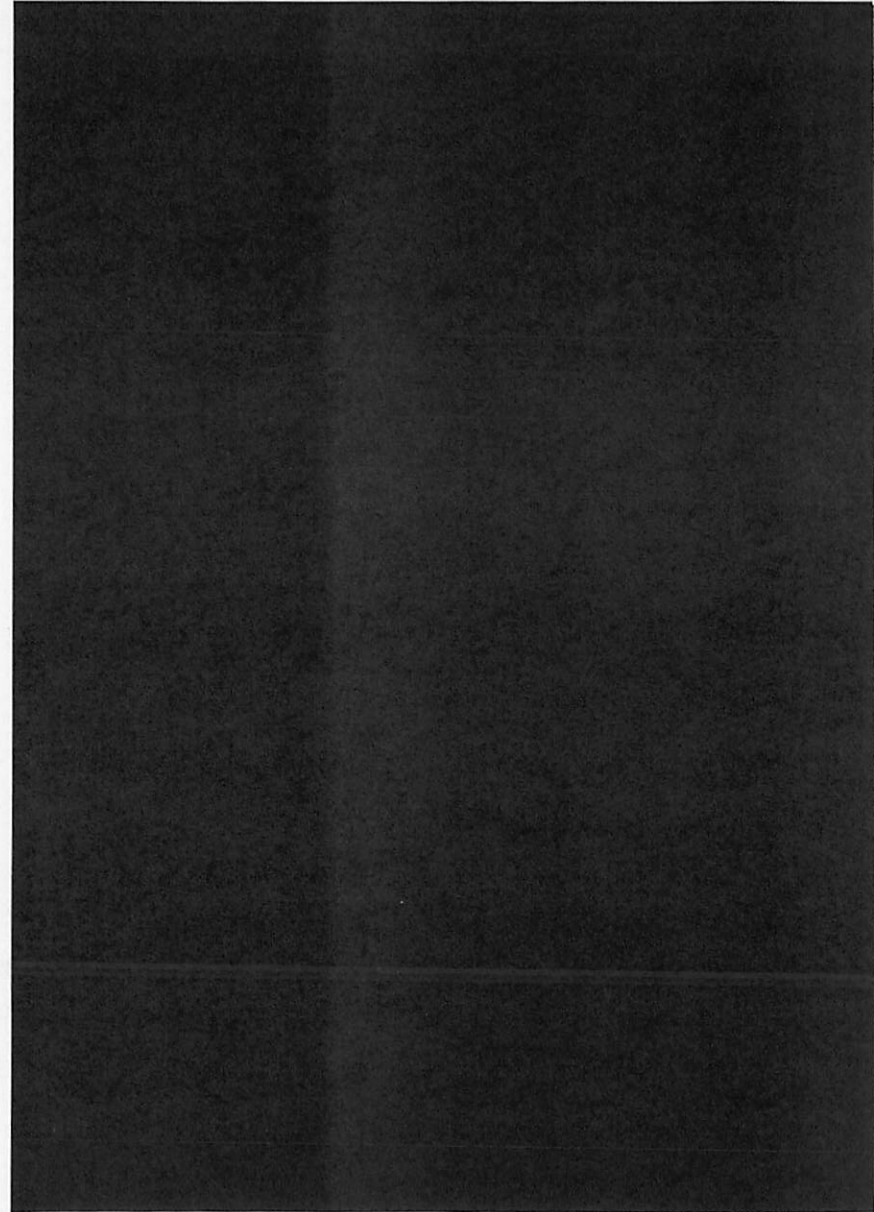
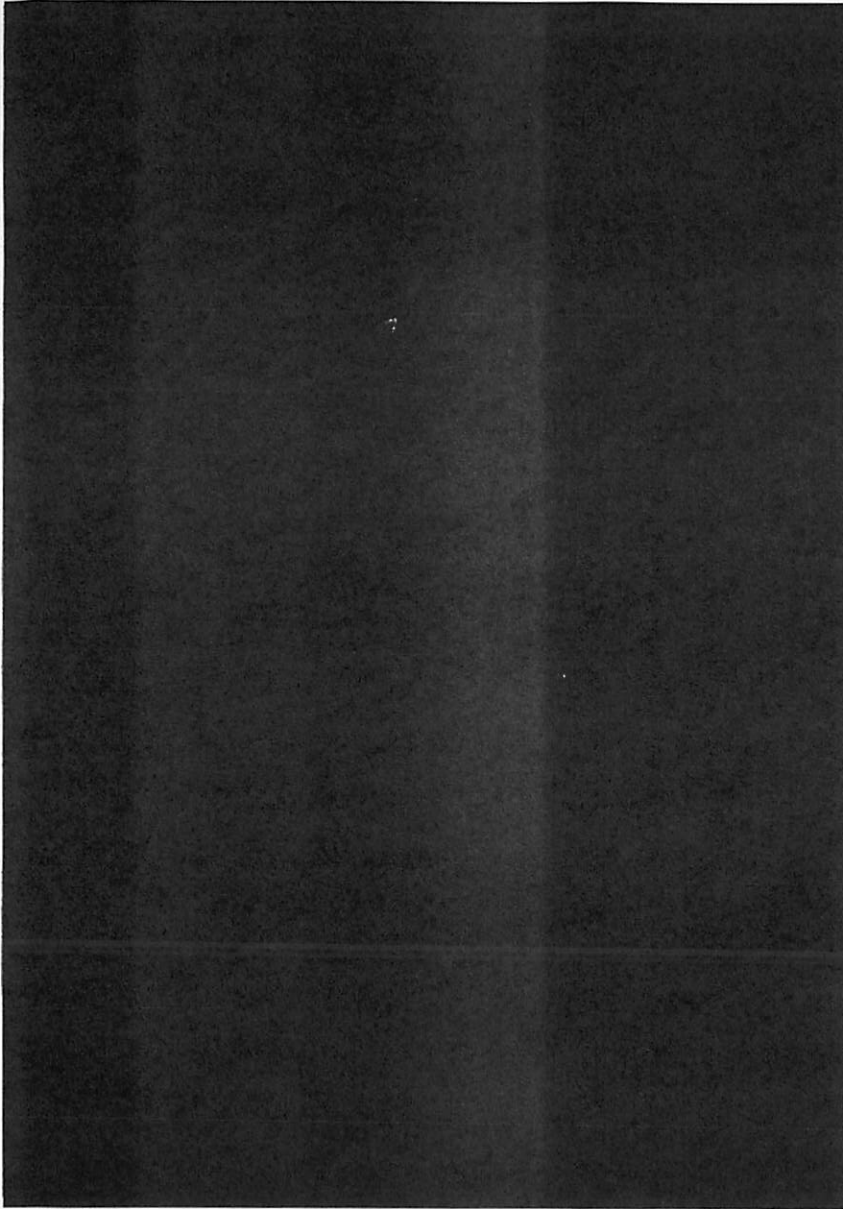
1 研修期間等

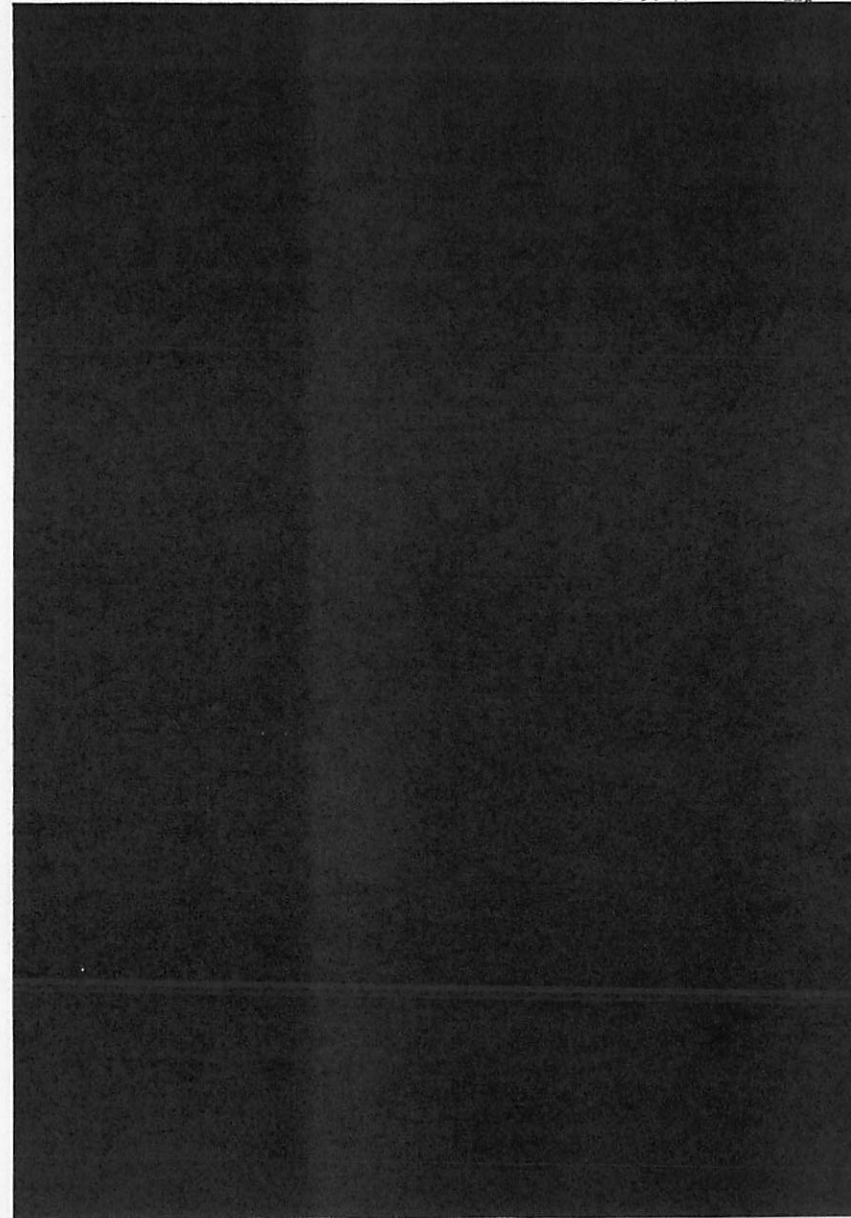
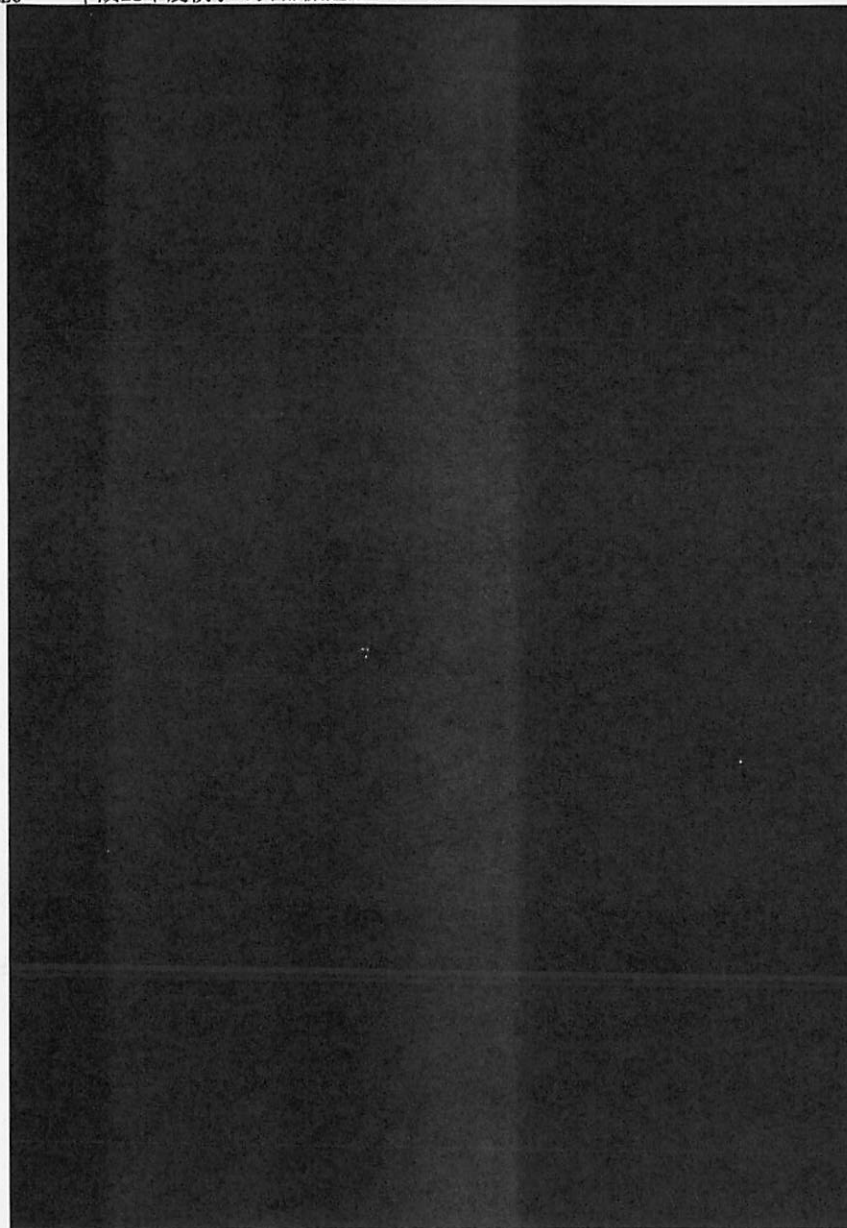
[redacted]での研修は、平成23年11月1日から平成24年2月29日まで

の4か月間であり、[redacted]において実施された。[redacted]に置かれているが、[redacted]
[redacted]私は、[redacted]
研修の前半2か月間は[redacted]
[redacted]に、後半2か月間は[redacted]
にそれぞれ配属された。









社会正義の実現'などのミッションは明らかであって、皆認識しているが、時代の変化、特に司法分野での変化が激しい昨今においては、そのミッションを達成するための手段も少なからず変革を求められている。そのような変化に対応するためには、検察運営において、組織としてのチームプレーも要求されているであろう。つまり、'事件処理'を離れた組織運営の部分においても、上司・先輩・自身一人一人がリーダーシップを取り、部下・後輩を育て、事務官・他の捜査機関・司法修習生等との関係を的確に築き、情報共有や事後的なフィードバックを行うなどする必要性が、以前よりも高まっていると言えるであろう。

- 4 このような中で、検察では、もちろん私も含めてであるが、事件処理に関して個々人が全責任を負うのと同じように、組織運営面の事項についても、個々人が自己の責任において判断・実行すべきとの考え方が強く、'チームプレー'や'共有'という発想に乏しいように感じられる。

ここで具体例を出すべきではないと思われるため、抽象的に述べるにとどめるが、例えば、新たな試みなどを行うに当たり、上層部で考えられている事項が、現場の一検事にまで伝わっているといえるであろうか。形式的な書面で通知された後各部署でその運用方法等につき検討したり、各部署の上司がその部署におけるその試みに対する考え方を示したり、現場の一検事が意見を述べたりすることが十分に行われているであろうか。過渡期とはいえ、各部署においてどのような方向性で進めたいかという意識の共有は、不要なのであるか。

新たな試みをする際、その試みの趣旨を周知し、それに関する情報を皆で共有し、その試みの成果を上げる方策を皆で考えて実行し、結果をフィードバックして修正することを繰り返さなければ、十分な成果は上げられないであろう。このような共有等は、最上層部のみが行っても十分ではなく、現場にいる各検事が関わるからこそ効果を得られるはずであり、そのためには、現場の検事の属する班や部などの単位で、その部署に合った落とし込み・共有をする必要があるように思う。

この点、検察では、新たな試みのため、本省や上層部は詳細な検討を加え

第4 研修の所感等

- 1 今回の研修での成果は、目に見えるものではないが、私にとってはあまりにも大きいものであった。本稿で1点挙げるとすれば、'組織のあり方'について改めて考えることができた点である。

- 3 翻って、検察を見てみると、検察でも、もちろん'適切な事件処理による

ているのであろうが、現場への周知のあり方や、現場の各部署での落とし込みや共有のあり方については、改善すべき点が少ないように感じられる。

検察においても、事件処理という各自の仕事そのものについては、正しいことを曲げず、自己責任を貫くのは当然であるものの、組織運営面においては、チームプレーが必要なはずである。チームプレーとは、漫然と組織の方針に従うという意味ではなく、一人一人が新たな試み等の意味を真に理解し、組織の一員としてのリーダーシップを発揮して、組織の在り方をより良い方向に導くことを意味しており、そのためには、情報の的確な周知や共有は不可欠であるように思う。

- 5 さらに、組織内で情報を十分に‘共有’し‘チームプレー’を実現するには、情報の発信元と受け手が意識を共にしている必要がある。そのためには、発信元は、受け手となる個人々々を十分に把握し、時には共に問題を解決するなどして信頼関係を築き、発信元の意向を受け手それぞれに合わせた的確な方法で伝達するなど、個人々々の尊重が必要となるであろう。

チームプレーでは、[]でも同様であるが、一人のチームメイトの不調や苦手を、肉体面でも精神面でも、監督のみならず他のチームメイトがフォローすることが自然と要求される。それができなければ、チームの勝利はない。皆が個人技に走ってボールを追えば、チームとして機能しない。そして、監督やチームメイト同士のフォローを可能にするためにも、日頃から相手の調子や得意不得意などを知り、様々な話をし、共に助け合うなどして信頼関係を築く必要がある。

これは、チームスポーツではもちろん、組織として活動する以上、仕事でも当たり前のことである。検察においては、まず自分たちが組織の一員であることを十分に認識し、信頼関係の構築を含めた個人々々の尊重について一人一人が意識し、チームとして取り組むための方策を考えていかなければならないように思う。

- 6 組織の在り方は組織によって異なる上、社会の変化に伴ってどの組織も変化を求められるため、常に各組織が自らの在り方を模索し続けなければならない。

[]のやり方がいいとか、[]をまねすべきと言いたいわけではないし、[]自体も、より良いチームプレーを目指し、日々問題点と向き合い、改善を試みている。

ただ、[]で経験したような‘共有’や‘チームプレー’の姿勢から、学ぶことが多いと感じたのは確かである。

検察は、社会の大きな変化の波にもまれる変革期であり、今後ますます組織力が試されていくであろう。だからこそ、この変革期を乗り切ってより良い検察を作るには、一人一人が検察組織の一員であることを自覚し、チーム力を高める必要があると感じている。

第5 おわりに

今回の研修において、[]の皆さまは、どの方も、ご多忙の中、研修生の私を温かく受け入れ、できるだけ沢山見聞きさせようとしてくださった。様々な場面に立ち合わせてくださり、一つ一つ丁寧に説明し、問題点や難しい局面も包み隠さず見せてくださった。

このような[]での研修は、多分多くの方の想像をはるかに超えると言えるくらい、沢山の刺激を受け、得るものが多く、充実したものであった。ここに記載したのはそのうちほんの一部、それも視点を絞って記載したにすぎない。4か月間と短期間ではあったが、全く違った世界を見ることの重要性は、経験した者にしか分からないであろう。この研修を受けることができ、本当に良かったと思っている。

最近は出向する人数も増えているため、このような研修以外でも他の組織から学ぶ機会は増えているであろうが、民間の、司法関係とは全く関わりのない世界を見ることも、十分に意味のあることだと感じており、今後もできるだけ沢山の方が外部を見る機会を得られれば良いと思っている。

最後に、今回私を受け入れてくださった[]の皆さま、研修に送り出し

てくださった地検検事正及び次席検事、研修の手配をくださった本省及び地検総務部の皆さま並びに研修中に私の穴を埋めてくださった地検公安部の皆さまに、心より感謝申し上げます。